第7回情報連絡会提案企業一覧

	会社名	製品名・技術名	技術概要	問い合わせ先
1	株式会社酉島製作所	TR-COM 回転機械モニタリングシステム	本提案技術は、回転機械の状態を把握するための IoT 型モニタリング技術であり、電池内蔵の無線式振動センサ、データ収集用アプリケーション、クラウド型データ管理・解析システムで構成される。 センサをポンプや電動機などの回転機械に取り付けることで、機器運転時の振動データを自動的に取得し、無線通信によりデータを収集・蓄積する。 取得した振動データは、最大10,000Hzまでの加速度振動としてFFT解析を行い、周波数成分の変化を継続的に管理する。 これにより、軸受や回転部に起因する振動特性を定量的に把握し、機器の状態を時系列で確認することが可能となる。 本技術は、農業用揚排水ポンプ、上下水道設備、公共インフラ設備をはじめ、ポンプ、モータ、ファンなどの回転機械を対象とした状態監視用途に活用できる。 既設設備への後付け設置が可能であり、現場で取得したデータを遠隔から確認・管理することを目的とした技術である。	担当者　藤井直樹（フジイ　ナオキ） 電話番号　080-6223-7271 メールアドレス　n-hujii@torishima.co.jp
2	富士通株式会社	水道スマートメーター オープン化戦略（コスト最適化と通信成功率向上を実現するシステム準備）	社会の重要インフラである水道事業は国民の生命線です。老朽化した水道設備更新や、労働人口減少による事業継続が危ぶまれている状況のなか、水道スマートメーターを適切なコストで実現し、投資効率の高い水道設備の更新や検針業務の効率化が急務です。そこで、物品と回線の分割調達方式を採用することで、拡張性の高いスマートメーター通信システムを実現します。この実現には、入札前に事業体自体が仕様を策定し、その仕様をオープン化する必要があります。結果、事業体ドリブンなシステム構成が可能になり、以下二点の課題を解決します。 〇調達コストの最適化（ スマートメーター（通信機器）、回線、検針値収集システムをそれぞれの仕様書に基づいて調達することで、公正な市場競争を促し、コスト最適化を実現） 〇通信成功率の向上（回線にシングルや、マルチキャリアなど複数回線事業者を採用。必要に応じて現地の通信状況測定や、通信不可時に通信事業者の接続切替することで安定した通信を行い、通信成功率向上） 以上により、水道スマートメーターを全国規模で本格稼働した後には、データを最大限に利活用し、災害対策や労働人口縮小対策を踏まえた国民の生活の質向上に繋げることが可能になります。これは、未来志向のシステムを意味します。 その実現には高度な技術を要する以下の準備が必要です。 ①通信機器、回線、検針値データ収集システムの仕様書の準備 ②安定したシステム運用のための、複数の製造ベンダー間の接続性確認 富士通は電力・ガス他のスマートメーターを国内・グローバルで数千万台稼働している実績があり、高度な技術を社会に提供した実績と経験があります。その実績や経験を活用した仕様をオープン化し、それに基づいた調達を実現することでコスト最適化、通信成功率の向上を実現させるシステムや調達方式について提案いたします。	担当者　山下莉奈（ヤマシタ　リナ） 電話番号　070-7037-2473 メールアドレス　yamashita.rina@fujitsu.com
3	株式会社　日立製作所	異なるシステム間でデータを流通させるプラットフォーム 「Connective OS」	水道事業の広域化を見据え、データ連携やサービス活用、運用管理を支援する統合プラットフォーム「Connective OS」により広域連携の課題解決を実現します。 DXプラットフォームの特徴として①アプリケーションインタフェースの統一、②外部連携、③共通業務である保守の一元化が挙げられます。 　これにより、事業体が保有する各浄水場の水量、水位、水質などの運転データや日常の巡回点検結果のデータを収集するデータ蓄積から始め、広域監視制御、アセットマネジメント、AIによる運転支援等データ活用への段階適用が可能です。 　また、水道広域化においてデータ相互連携やデータ活用等へ柔軟な対応を実現するため「水道標準プラットフォーム」標準仕様にも準拠しております。	担当者　蓮見　慶次郎（ハスミ　ケイジロウ） 電話番号　070-4851-8084 メールアドレス　keijiro.hasumi.mh@hitachi.com
4	XISOM inc. （㈱ザイソム）	X-SCADA AI "現場のデータを収集し監視・制御するシステム"	X-SCADAとは、水道施設をはじめ、エネルギー、食品・飲料、製造など幅広い分野で利用できる“現場のデータを収集し監視・制御するシステム“です。 浄水場、配水池、ポンプ場、下水処理場などの工場インフラにおいては、水位計、流量計、圧力計、水質センサー、設備稼働情報など、現場に設置されている各種機器からデータを収集し、リアルタイムで監視・制御できます。さらに、遠隔地からの監視・操作にも対応しており、緊急時の迅速な対応や現場労力の省力化を実現します。X-SCADAはノーコードによる柔軟な監視画面の構築を可能とし、運用現場や利用者のニーズに合わせた最適なシステム環境を提供します。 また、収集したデータはすべて一元的に管理され、既存のデータベースシステムや外部システムとの連携もスムーズに行えます。これにより、水道事業における効率的な費用、予知保全、データ活用による高度な意思決定を強力に支援します。	担当者　石嶺愛蘭（イシミネ　アラン） 電話番号　090-5127-2184 メールアドレス　tech@xisom.com
5	東亜グラウト工業株式会社	アセットアドバンス、オプティマイザー（二つの技術は互いに補完しう技術、連携でインフラ管理の効率性が飛躍的に向上！）	1. アセットアドバンス（AI管路更新計画策定技術） 技術概要: アセットアドバンスは、インフラ資産、特に上下水道管路の長期的な維持管理計画を最適化するAI駆動型ソリューションです。このソフトウェアは、大量のGISデータや管路情報を基に、最適な修繕・更新計画を立案し、コスト削減と資産寿命の最大化を実現します。 2. オプティマイザー（AI管網解析最適化技術） 技術概要: オプティマイザーは、水道および下水道システムの設計・運用を支援するクラウドベースの最適化ソフトウェアです。水理モデルを活用し、圧力管理の最適化、配水管のダウンサイジング検討、耐震化優先順位、ブロック化の再検討など、システム全体の効率性とコスト効果を向上させます。	担当者　結城　啓治（ユウキ　ケイジ） 電話番号　03-3355-1531 メールアドレス　optimatics@toa-g.co.jp

第7回情報連絡会提案企業一覧

6	日鉄ソリューションズ株式会社	画像AIソリューション「PPCV」	映像配信基盤(監視カメラ・Webカメラ・スマホ・ロボット等)によりリアルタイム映像収集を行い、映像から人やモノの位置を推定、画像AIソリューション「PPCV」を用いて危険事象を映像ベースでリアルタイムに判定します。画像AIソリューションを活用する事でセキュアで低コストかつ遅延時間の少ない環境を構築します。弊社ソリューションのデジタルツインシステム「Geminant」、ナレッジ基盤システム「データシンクロニシティプラットフォーム」、構内保安・入構管理システム「安全見守りくん」、グループ音声コミュニケーションシステム「ARPATIO」との連携も実現しております。想定ユースケースとしてはリアルタイム遠隔監視やロボットの遠隔操作、映像解析を通じてリアルタイムに位置や状態を見える化による危険予測等の各種デジタルツインソリューションへの活用があります。 ※製品参照URL Geminant（ジェミナント） https://www.nssol.nipponsteel.com/press/2025/20250522_110000.html 安全見守りくん https://www.nssol.nipponsteel.com/ss/detail/app/anzenmimamori.html ARPATIO https://www.nssol.nipponsteel.com/ss/detail/app/arpatio.html	担当者　森山太郎（モリヤマ　タロウ） 電話番号　080-4404-9857 メールアドレス　moriyama.taro.2n7@jp.nssol.nipponsteel.com
7	東京ガスネットワーク株式会社	業務効率化DXソリューション	【Microsoft365の活用】 ・Microsoft365は、コミュニケーションツール、アプリ作成ツール、RPAツールなどがあり、間接業務を含む様々な業務に適用可能です。東京ガスネットワークでは、Microsoft365の活用促進を目的とした研修やマニュアル類の整備を進めており、アプリケーション開発なども行っております。 ・組織変革や運用定着に向けた各種取り組みも実施してきたため、Microsoft365を導入している事業者さまに対し、活用促進に向けた取り組みや実績に基づいたDXの進め方のノウハウをご紹介します。 【自動検針・集中監視サービス～共同利用センター～】 ・東京ガスネットワークでは、水道・都市ガス・LPG事業者向けのスマートメーター センターサービスを提供しています。 ・スマートメーターを活用することで、検針値の読み間違えや記載ミス等のヒューマンエラーの削減、難検針箇所の解消による業務効率化や不在宅の漏水箇所の早期発見による住民満足度の向上等に寄与できるものと考えています。 ・特徴１：長い運用実績＆複数の通信キャリアで安定稼働するサービスが提供可能です。 ・特徴２：外部からのセキュリティ脅威に対し、セキュアなご利用環境を提供できます。 【3社連携協定の取り組みについて～ガス・電気・通信会社の垣根を超えた挑戦～】 ・2022年の11月18日に東京電力パワーグリッド株式会社およびNTT東日本株式会社と三社協定を以下の目的で結んでおります。その中で取り組んでいる、①災害対策連携、②ドローン協業について紹介します。 ・昨今の甚大な台風被害や、今後想定される首都直下型地震等の大規模自然災害に備えるため、ライフラインの更なるレジリエンス強化が必要とされています。そして、インフラ事業における社会課題解決によるサスティナブルな循環型社会の確立が求められています。これらを実現するためには、社会基盤として大きな役割を担う「ガス」「電気」「通信」の連携が不可欠です。各社事業の強みを活かすとともに、相互連携による地域価値向上に資する取り組みを推進します。	担当者　細井徹平（ホソイ　テッペイ） 電話番号　080-2276-6857 メールアドレス　t-hosoi@tokyo-gas.co.jp https://www.tokyo-gas.co.jp/network/ss/solution/
8	株式会社　日立システムズ	CYDEEN 劣化要因分析支援サービス	劣化要因分析支援サービスは、設備機器に関する既存の維持管理データ（諸元、点検、補修データなど）をAIで分析し、施設や設備の損傷状況、健全度を予測することでインフラ施設や設備の点検・補修計画の立案を支援するサービスです。 劣化要因分析支援サービスは、以下の特長を有しています。 (1) AI（機械学習）による分析で、点検・補修計画の立案時間を削減 人が行っていた点検・補修優先箇所の優先順位付けを、AI（機械学習）を利用した損傷予測や健全度予測により省力化することができます。 また、分析した結果を活用することで、効率的な点検・補修計画の立案が可能です。 (2) 施設や設備を限定せず、さまざまな分野で分析可能 これまでお客さまが蓄積してきた維持管理データ(諸元、点検、補修など）があれば、インフラ施設や設備の種類を問わず劣化要因分析が可能です。 (3) 損傷状態を「見える化」し、点検・補修箇所の見落としを防止 施設の劣化状態をグラフィカルに表示することで、点検・補修優先箇所の見落とし防止や点検・補修の優先順位付けに活用することができます。	担当者　黒沢祐佳（クロサワ　ユカ） 電話番号　03-5435-7832 メールアドレス　yuka.kurosawa.es@hitachi-systems.com seminar-cydeen@hitachi-systems.com
		CYDEEN 映像データ利活用システム	映像データ利活用システムは、インフラ施設（道路、鉄道、電力、上下水道など）を監視する映像データの「統合」「共有」「鮮明化」「分析」を実現するサービスです。 映像データ利活用システムは、以下の特長を有しています。 (1)さまざまな映像を統合しに同じ仕組みで閲覧可能 異なるメーカーのカメラ映像を統合・配信が可能です。 また、統合した映像をさまざまなデバイスに配信できます。 (2)監視・制御システムのモニター映像をリアルタイム共有 既存アナログカメラをIP化してタブレット等に配信が可能です。 また、PCレスでモニターに映像を表示できるので設置も簡単です。 さらに、インターネットに接続できない監視システムのモニター映像をIP化してPCやタブレット等に配信することも可能です。 (3)画像・動画をリアルタイムで鮮明化し見やすさ大幅UP 映像を見やすく鮮明化、視認性の高い映像を提供。不鮮明な映像をリアルタイムに鮮明化してモニターに表示します。 お客様ごとに画像/映像から得たい情報は異なるため、用途に応じた鮮明化プロファイルの作成も可能です。	

		CYDEEN 水インフラ監視サービス（水質監視、流量監視、水圧監視）	CYDEEN水インフラ監視サービスは、平常時における安定的な水供給の確認、設備投資判断の高度化、災害時の早期復旧を目的として、水質・流量・水圧をリアルタイムに監視するシステムをご提供します。 クラウド技術を活用することで遠隔監視が可能となり、監視・運用業務の効率化を図ることができます。 本サービスは、以下の特長を有しています。 （1）安全な水の供給と品質の確保（水質監視・水圧監視） 末端地域や災害用貯水タンクにおける残留塩素濃度をリアルタイムに監視し、しきい値を下回った場合の自動排水（オプション）により、効率的な濃度維持が可能です。 あわせて、病院・駅・避難所・文化財施設等の水圧低下をリアルタイムに監視することで、漏水の早期把握や火災時の焼失リスク低減が期待できます。 （2）設備維持管理の効率化と投資判断への活用（流量監視・水圧監視） 配水ブロック内の流量・流向を定量的に把握することで、布設替の管径決定、配水ブロックの検討、配水池給水区域の把握等、適切な設備投資判断に活用できます。 さらに、減圧弁の異常時の水圧上昇・低下を即時通知し、メンテナンス時の水圧確認作業を自動化することで、作業負担の軽減と維持管理の向上が期待できます。 （3）災害時・事故時の異常箇所特定と復旧の迅速化（流量監視・水圧監視） 流量計測ポイントや水圧監視装置の活用により、漏水や断水の疑いがある配水系統を迅速に特定できます。これにより、復旧時間の短縮、復旧作業者の作業効率向上、断水範囲の局所化が可能です。 監視装置は断水なし・土工事不要で後付設置が容易で、テレメータの補完・代替としても利用でき、通信エリアの広いセルラーLPWAとIP67～IP68の防水性により長期運用が期待できます。	
9	株式会社ジャパン・インフラ・ウェイマーク	屋外用Dockを活用したドローンでの自動巡回	Skydio X10 Dockは、雨天・夜間・セルラーでの飛行が可能なドローンを活用し、決められた時間に決められた航路を自動で飛行し、動画や静止画撮影が可能。 ・撮影データは、クラウドを介して活用でき、動画解析AIなどと組み合わせることで、アナログメーターの読取、ひび割れ、人、異常の検知なども可能。 ・遠隔での運転も可能なため、災害時や緊急時など非定型業務での活用も可能。	担当者　佐藤孝行（サトウ　タカユキ） 電話番号　070-4417-2439 メールアドレス　takayuki.satou@jiw.co.jp
		屋内用Dockを活用したドローンでの自動巡回	・Skydio Dock Liteは、屋内の非GPS空間でも安定飛行が可能な小型ドローンを活用し、決められた時間に決められた航路を自動で飛行し、動画や静止画撮影が可能。 ・AIロボット ugo proに搭載し、ロボットによるエレベータ移動やボタン押下、高所や段差を伴う場所の点検などで、ドローン飛行と組み合わせての活用も可能。 ・撮影データは、クラウドを介して活用でき、動画解析AIなどと組み合わせることで、アナログメーターの読取、人、異常の検知なども可能。 ・遠隔での運転も可能なため、災害時や緊急時など非定型業務での活用も可能。	
		ドローンを活用した水管橋点検/共同点検	・Skydio社の小型ドローンを活用した水管橋点検が可能 ・NTTの通信添架管路のドローン点検のノウハウを活かし、ドローンでの撮影、画像を元にした点検表の作成までを実施 ・NTTの通信添架管路と同一/近隣の水管橋を共同点検することで、点検コストの低減・シェアリングエコノミーの実現も可能 ・ドローンの飛行が困難な低い位置の管路に対してのボート型ドローンでの点検も可能	
		浮子型ボートを活用した点検	・動力を持たない浮子型ボートに搭載した360度カメラで、管路内の動画撮影が可能 ・動力が無く軽量のため、浅い水深でも航行可能 ・機体コントロール不要のため、電波到達範囲外で調査可能 ・400mm以上の比較的小口径、5m/s以下の比較的流速の速い区間にも対応 （水路などの場合は、動力あり・機体コントロールありの点検用ボートの活用も可能）	
10	株式会社ニシヤマ	生成AI「SmaNAVI」による現場リアルタイム監視・事故防止	・ニシヤマは、長年、ガス会社や電力会社で培ったノウハウを活かし、工事現場で役立つ ソリューションを提供してきた ・タフネススマホを三脚に取付け、水道工事現場の映像をストリーミング配信し、クラウドで画像フレームに抜き出し、安衛法などの法令を参照して、生成AIが不安全を判定する ・判定結果はクラウドに記録され、現場監督や現場代理人のスマホやタブレットに通知され、事前に事故防止が図れる	担当者　鹿島田　稜（カシマダ　リョウ） 電話番号　03-5767-4435 メールアドレス　kashimada@nishiyama.co.jp
		行動認識AIによる侵入者検知・警備システム「asilla」	・ニシヤマでは、長年、ガス会社や電力会社で培ったノウハウを活かし、ICTを活用した 遠隔監視ソリューションに取り組んでいる。 ・100以上の国内施設における警備導入実績をベースに、屋外における侵入者検知に特化 して、AI検知モニタリングシステム「Solar AI asilla」は開発された。 ・当初、太陽光発電所の侵入者検知を想定していたが、広く屋外施設での活用が可能。 ・人の行動認識AIを活用しているため、影や植物や動物による誤検知がない。 ・既存のIPカメラとの連携が可能で、赤外線カメラと連携では、暗闇での検知も可能。 ・侵入者を検知した場合は、リアルタイムに警報音の発報や、遠隔への通知が可能。 ・侵入者検知以外に、カメラ断線検知、撮影妨害検知機能も提供可能。	
		アークサンド（人工砂）	焼却灰を約1,000℃の熱で焼成処理をしたリサイクル資材です。 灰が溶けない温度帯で無害化処理をするため自然砂に近い色合いや手触りです。透水性能や締固めが良いほか高い吸水性を有し、天然砂の代替品として利用可能です。 環境負荷低減: 焼却灰を再利用するため、天然砂の採取を抑制でき、SDGsへの貢献が評価されています。品質安定性: 土壌環境基準をクリアしており、周辺の土壌や植物への影響がないことが確認されています。 NETIS評価: 以前のNETIS登録（CG-120023-VE）において「VE評価（有用な技術）」を得ており、施工実績の豊富さと信頼性が裏付けられています。	

第7回情報連絡会提案企業一覧

		水中３Dモデリングカメラ	Discovery Vision システムは高画質の画像を撮影し3D モデリングを行うためのカメラシステムです。単眼レンズの「Discovery」と双眼レンズの「Discovery Stereo」の2種類があり「Discovery Stereo」では3D モデリングを点群情報として処理ができるため対象のサイズを計測することが可能です。更に、強力な「Nova Mini Light」（ライティングシステム）と併用することでより鮮明な画像を取得することが可能です	
		マホ測量システム「LRTK Phone」による3Dモデル取得とGIS連携	・ニシヤマでは、長年、ガス会社や電力会社で培ったノウハウを活かし、工事現場で役立つソリューションを提供してきた。 ・スマホに装着可能なRTK-GNSS(高精度 GPS)端末『LRTK Phone』を装着すると数cm精度の測位や、位置情報付きの写真撮影、点群採取が可能となる。 その他、 ・埋設管施工現場で採取した点群データから生成した3Dモデルを、復旧工事後に投影して、埋設管の状況を再現することができる。 ・本システムの共有機能を活用して、地図情報システムや水道管管路図に3Dデータや写真を紐付けすることができる。	
		自動点検システム　レール走行カメラ「トリノス」	・ニシヤマでは、長年、ガス会社や電力会社で培ったノウハウを活かし、設備点検現場で役立つソリューションを提供してきた ・今回紹介するのは、下水道陥没事故や原発調査で活躍した国産ドローンメーカーLiberawareが開発したレール走行カメラ「トリノス」を紹介する ・ポンプ場や水道設備での定期点検で、点検する場所の近辺にレールを敷設し、そのレールに沿ってカメラは吊り下げ式で走行し、検査する機器のメーターなど、予め設定した場所をPTZカメラで撮影し、画像をWi-Fiで送信して遠隔から参照できる ・自動巡回と、人の遠隔操作でのカメラ撮影が可能。遠隔操作は、あたかも人がその場所に行って巡回しているかの様な点検が可能	
11	ジャパン・トゥエンティワン株式会社	ドローンで取得された画像・赤外線データを活用したコンクリート構造物AI診断システム「RAPIDA（ラピダ）」	RAPIDA（ラピダ）の診断システムは、ドローンで取得された画像や赤外線データ、構造データなどを元に、最先端のAIとアルゴリズムでコンクリート構造物の異常を高精度に検知します。異常箇所の特定とともにメンテナンスの優先順位付けも自動的に行い、個別構造物からインフラ全体に至るまで、効率的な維持管理とコスト最適化を実現します。	担当者　近藤　李穂（コンドウ　リホ） 杉本　良夢（スギモト　ラム） 電話番号　0532-66-0021 メールアドレス　smart-infra@japan21.co.jp
12	フォーグローブ株式会社	水道DX戦略アクションプラン対応LINEミニアプリ活用	①製造・供給DX 緊急時プッシュ通知による情報伝達高度化/GPS連動給水拠点案内/市民からの異常報告受付システム ②サービスDX オンライン申請プラットフォーム/マイページ利用促進/多様な決済手段の提供 ③業務運営DX AIチャットボットによる24時間対応/ペーパーレス化推進/多言語対応による業務効率化	担当者　山口　麻衣子（ヤマグチ　マイコ） 電話番号　06-6222-7716 メールアドレス　yamaguchi_maiko@fourglobe.co.jp
13	ソフトバンク株式会社	X-Ghost（クロスゴースト）	コンタクトセンターが直面する深刻な課題に対し、自律思考型AIの音声対応を実現するソリューションです。日本の多くのコンタクトセンターでは、依然として深刻な労働力不足と高い離職率が続いており、対応品質の維持や業務知識の継承が困難といった課題の解決を支援します。 さらに、企業が提供する多様な商材・サービスにリアルタイムで対応し、顧客一人一人に寄り添ったコミュニケーションの実現を目指します。 【Point１】24時間365日音声問い合わせ対応 24時間365日、問い合わせに対してAIオペレーターが対応。人間らしい自然な音声対話によりスムーズな顧客対応を実現します。 【Point２】自律思考型AIによる人間らしい自然な対話 音声認識・言語処理・音声合成をつなぎ合わせる従来方法の課題解決に向けてSpeech-toSpeechモデルで、コンタクトセンター業務の自動化と品質向上を両立します。 【Point３】モニタリングAIによる安心安全の担保 モニタリングAIが発話やシステム挙動をリアルタイムで監視。リスク判定とガードレール制御機能により、お客さまが安心して対話できる環境を提供します。	担当者　加藤竜児（カトウ　リュウジ） 電話番号　080-3240-4356 メールアドレス　ryuji.kato@g.softbank.co.jp
		教育効率化MRアプリケーション『Assists(アシスツ)』 XR（AR／MR）技術を活用した現場教育・技能継承支援ソリューション	Assistsは、AR／MRヘッドセットを用いて、実際の設備や機器の上に作業手順、注釈、熟練者の動作を重ねて表示するXR教育支援ソリューションです。 水道施設における設備操作、点検、部品交換等の作業を対象に、従来はOJTや紙マニュアルに依存していた技能教育を、直感的かつ体感的に学習できる環境を提供します。 熟練職員の動作やノウハウをXR空間上で「見える化」し、新人・若手職員が自主学習できる教育環境を構築することで、現場力の維持・向上に寄与します。	担当者　伊藤方章(イトオ　マサアキ) 電話番号　080-3244-2721 メールアドレス　masaaki.ito@g.softbank.co.jp
		mixpace（ミクスペース） BIM／CIM／3D CADデータのAR／MR可視化ソリューション	mixpaceは、BIM／CIM／3D CADで作成された設計データを自動で最適化・変換し、AR／MRデバイス（iPad、HoloLens 2、Meta Quest 3 等）上で現実空間に重ねて表示する3D見える化ソリューションです。 従来、専門的な変換作業や複数ツールを必要としていた3DデータのAR活用を、短時間の自動変換により実現します。 水道事業においては、埋設管や設備の位置・深さの可視化、施工前確認、設計レビュー、関係者説明、若手職員への教育など、設計・施工・維持管理の各フェーズで活用が可能です。	
		3Dスキャニングソリューション『XGRIDS』 3D Gaussian Splatting（3DGS）技術を活用した周辺環境3Dスキャニング	XGRIDSは、水道施設や設備を高精度に3Dデジタル化し、仮想空間上で自由に閲覧・体験が可能な3Dスキャニングソリューションです。 実際の水道施設内部を3Dデータとして再現することで、一般市民や学校向けの施設見学、イベント展示、Web公開などに活用できます。 職員の立ち会いを必要とせず、「いつでも・どこでも」施設見学体験を提供できる新たな広報手法です。	
14	株式会社クボタ	地下埋設物を考慮した3D自動配管設計	1.既存図面や試掘した情報を図面に3D化する 2.埋設物探査レーダで検出した埋設物を3D化する 3.計画線に深さ情報を付与し、3Dで自動配管 4.3Dの埋設物と配管が干渉している位置を検出して回避経路を提案	担当者　東脇正明（トウワキ　マサアキ） 電話番号　070-7818-0035 メールアドレス　masaaki.towaki@kubota.com

第7回情報連絡会提案企業一覧

15	ＳＳＫファシリティーズ株式会社	ＳＰＴ配管診断による水道配水管の劣化診断	当技術はX線照射によるX線透過画像の濃淡差をデジタル数値化することで配管厚腐食深さを正確に測定出来る弊社独自の特許技術である。配水管や水道施設内配管等の厚みを高精度で解析し残存寿命を年単位で診断出来る。さらに非破壊で測定可能なため導水管、送水管、配水管、水管橋、施設内各種配管の劣化診断に大変有効である。	担当者　安井　國雄（ヤスイ　クニオ） 電話番号　011-868-5000 090-5077-4060 メールアドレス　yasui@ssk-fa.co.jp
16	一般社団法人 日本水中ロボット調査清掃協会	水中ロボット・水中ドローンによる配水池劣化調査	型式認定された専用の配水池清掃用水中ロボットに搭載した高精度カメラにより底面清掃と同時に底面の塗装剥がれ、クラック、鉄筋爆裂、天井剥がれ、内部配管腐食等の劣化状況を配水池の水を抜くことなく安全に調査することが可能である。壁面については状況に応じて高精度カメラを搭載した水中ドローンを併用することでより詳細な劣化調査が可能である。	担当者　鍋島 正憲（ナベシマ　マサノリ） 電話番号　011-868-5000 090-5077-3246 メールアドレス　yasui@ssk-fa.co.jp
17	三井情報株式会社	製品名：AssetWatch	設備（機器）の振動分析による予兆検知、故障解析・診断サービスです。 ポンプ等の回転機器に対して、IoTセンサーを設置し、回転機器の監視・予兆検知・故障解析を行います。AIを搭載したクラウドシステムがセンサーデータを24時間監視しており、異常の予兆を検知した場合は、専門技術者がリモートで詳細に分析を行いアラート及び対応策をお客様に通知。突発的な故障によるダウンタイム（設備停止）を防止します。また、技術者は振動分析に関する国際的な資格を保有しており、彼らが確認するセンサーデータ（振動数や機器表面温度など）は、専用クラウドプラットフォームにてお客様ご自身でも確認が可能です。	担当者　増田　蒼（マスダ　ソウ） 電話番号　080-5238-1072 メールアドレス　aw-sales-dg@mki.co.jp
18	株式会社SAYコンピュータ	See-Note（スマホ・タブレットを用いた点検ソリューション）	See-Noteは弊社が開発・販売している点検ソリューションであり、2024年12月に東京都水道局の浄水場管理で採用された他、東京ガスネットワーク株式会社の橋梁添架管やメータなどのガス関連施設検査や工事検査、電気のインフラ点検、製造業での製品検査など幅広い業務で活用されています。 本ソリューションの特徴は、点検と管理における使用性が高い点です。 導入時は、ノーコードの帳票作成機能があることから既存業務に合わせたシステム導入が実現でき、現場作業者の早期運用開始が可能です。 また、業務専用メニューを作ることができるので、1つのシステムを複数業務で利用可能です。 点検作業においては、Googleマップと連携していることから各施設の位置を視覚的に把握することが可能です。また、画像解析技術や音声入力機能との連携が可能です。また前回点検時における入力結果を確認しながら登録することができ危険予知も期待できます。 点検作業後の管理においては、各施設や点検日などの各種条件に応じた分析などが容易にできます。また、別システムとの連携実績なども多いです。 上記特徴から、浄水場や配水池、管路、その他、水道事業体が保有する施設の効率的な管理ソリューションとしての活用が期待されます。	担当者　田屋　直行（タヤ　ナオユキ） 電話番号　029-202-3006 メールアドレス　taya@saycom.jp
19	株式会社ソラコム 田中電気株式会社	・SORACOM Air（SIM回線）およびIoTプラットフォーム ・クラウドカメラサービス「ソラカメ」×SORACOM FluxによるAI画像解析 ・AIチャットボットサービス「Wisora」 ・水道メータデータ収集端末 （SORACOM SIMとの連携,国内主要通信事業者のSIMでの動作確認を予定。従来、特定の通信事業者に固定されていた通信方式の制限を解消しています。）	1. SORACOM Air（SIM回線）およびIoTプラットフォーム ソラコムは、仮想移動体通信事業者(MVNO)として、国内外でSIMを中心としたコネクティビティを提供しています。ローミング技術により無線区間としてNTTドコモ、KDDIおよびソフトバンクを利用可能なため、1枚の物理SIMで複数キャリアに接続可能なSIM（カード型/チップ型)を実現することができます。そのため、スマートメータの電波不感地帯への対応等、IoT活用には必ず付随する回線やネットワークに関する課題を解決することが可能です。 2. クラウドカメラサービス「ソラカメ」および、SORACOM FluxによるAI画像解析 【概要】 ・ソラカメ： 安価で設置が容易な常時録画型クラウドカメラ。電源があればWi-Fiやモバイル回線を通じて、スマホやPCから現場映像を安価に確認可能。 ・SORACOM Flux： カメラ映像やセンサーデータに生成AIを組み合わせ、計器読取や特定事象（異状、危険行動）の検知・通知を自動化するAIプラットフォーム 【活用して解決できそうな課題】 施設点検の遠隔化による移動負担の軽減 、AIによるアナログメーター等の自動データ化 、および工事現場でのAI画像解析を用いた未然事故防止 を実現します。 3. AIチャットボット「Wisora」 【概要】 WebサイトやPDFマニュアル、図面等の組織内のドキュメント等を学習し、高精度な回答と根拠ファイルを即座に提示するRAG技術ベースのAIチャットボット。社内ヘルプデスクやお客様からのお問い合わせ対応用ボットを容易に構築可能。 【活用して解決できそうな課題】 共有ドライブ内の膨大な資料を学習し迅速に情報抽出、熟練者のノウハウ学習による技術継承、および市民やユーザーからのお問い合わせに対するオペレーター対応の自動化。 １．TTS株式会社は2024年11月に、GPSなどを活用したIoTソリューション専門会社として田中電気株式会社より分社し設立いたしました。 本提案技術は、水道メータに通信機能を付加するスマートメータ技術であり、 水使用量データの自動収集および遠隔監視を可能とするものです。 防水等級: IP68対応 動作温度: -10°C〜+60°C対応 LTE-M（Cat.M1）通信を活用し、定時通信・現場通信・警報即時通信を組み合わせることで、水道使用状況の常時把握と異常の早期検知を実現します。	株式会社ソラコム 担当者　佐々木　哲平（ササキ　テッペイ） 電話番号　090-7849-6903 メールアドレス　teppei@soracom.jp 田中電気株式会社 担当者　岡田　匠（オカダ　ショウ） 電話番号　070-4458-4541 メールアドレス　okada@tanaka-denki.co.jp
20	メタデータ株式会社（担当：野村直之）	ChatBrid（生成AI×高精度RAG／知識アクセス権制御付き 受付・コールセンターAI基盤）	ChatBridは、自治体・水道局が保有するFAQ、業務マニュアル、条例・規程、帳票、Webページ、過去応対ログ等を統合し、根拠に基づいて日本語で高精度に回答する生成AIシステムを構築できるRAG基盤です。Webチャット／音声IVR（音声認識）／オペレーター支援に対応し、使用開始・中止、料金、検針、漏水、濁水等の問い合わせ一次対応の自動化と、エスカレーション時の有人応対の効率化を同時に実現します。さらに、データセットや知識レコード単位のアクセス権制御、監査ログ、個人情報マスキング(今回拡張予定)、キャッシュ回答編集承認（理想回答の固定化）により、水道業務に求められる信頼性と説明責任に耐える設計が可能です。災害時など問合せ急増時に自動でスケールアウトして容量拡大するKubernetes, Amazon EKS対応済。テラバイト級のデータ格納可。複数自治体の差異点に自動対応しつつ広域共通サーバ化も可能（保守のコストダウンや高品質化などで必要なら）。	担当者　野村直之（ノムラ　ナオユキ） 電話番号　080-3534-4033 メールアドレス　nomuran@metadata.co.jp

第7回情報連絡会提案企業一覧

21	国際航業株式会社	クラウド版GISサービス【SonicWeb-DX】	SonicWeb-DXは、GISを基盤としたクラウド型プラットフォームです。水道台帳図の閲覧から維持管理情報の蓄積、災害時の現場情報共有までを一元化し、平時・発災時を問わない情報の一気通貫な活用によって、水道事業のDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進します。 【リアルタイム情報共有】 スマートフォンやタブレット端末を活用し、住民からの要望や苦情、現場調査の結果をその場で登録。現地職員と庁内職員がリアルタイムに情報を共有することで、現地調査の迅速化と業務の効率化を実現します。また、動態管理機能により、現地調査中の職員や給水車両の位置を庁内からリアルタイムに把握でき、迅速かつ的確な指揮命令を支援します 。さらに、SNS情報を集約するAI防災ソリューションとAPI連携し、漏水や水質汚染に関する投稿を地図上で可視化することで、行政側だけでは把握困難な現場状況の早期発見に貢献します 。 【確実な維持管理情報の蓄積と活用】 クラウド上で管路施設の維持管理に関する動的情報（漏水修繕・修繕工事情報・管内調査履歴等）を一元管理。蓄積されたデータ（管路諸元情報＋維持管理情報）を活用し、リスク分析や更新の優先順位付けを精度高く行うことで、客観的な根拠に基づいた効率的な修繕計画（アセットマネジメント）の策定を可能にします。 【多様な主体との連携（ウォーターPPP等）】 クラウド型の特性を活かし、庁内利用に限定せず外部の維持管理業者（ウォーターPPP事業者等）や災害時の応援職員ともシステムを共用することが可能です 。官民で同一の空間情報をリアルタイムに共有・利活用することで、情報伝達の齟齬を解消し、地域社会全体のレジリエンス向上に寄与します 。 本システムは、多様な主体（住民・事業者・SNS等）とのインターネット連携により行政内部では得られない情報取得が可能になり、インフラ管理や現地調査の時間やコストを大きく縮減することに成功しているとして『2024グッドデザイン・ベスト100』に選定されました。	担当者　丸谷　哲也（マルタニ　テツヤ） 電話番号　042-307-7777 メールアドレス　tetsuya2_marutani@kk-grp.jp
22	一般財団法人リモート・センシング技術センター	mizuiro　人工衛星を用いた上水道管の漏水調査	●概要 人工衛星の衛星から発射されたマイクロ波が地下表層（アスファルト等の舗装下の表層）で散乱する現象を捉えることにより、その乾湿を測ることで、漏水の可能性が高い地点をスクリーニングする技術。 ●特徴 ①ピンポイントでの漏水箇所の推定：漏水の可能性が高い地点を10m四方で地図上に表示 ②独自のAIモデル：日本の湿潤気候に特化したAIモデルを開発	担当者　高橋　典之（タカハシ　ノリユキ） 電話番号　03-6435-7147 メールアドレス　takahashi_noriyuki@restec.jp
23	NTTドコモビジネス株式会社	docomo business ANCAR	docomo business ANCARは通信キャリアであるNTTドコモビジネスの様々なサービスやデータ、そして『AI』の力を活用して顧客体験を進化させる新しいコミュニケーションサービスです。コールセンターで利用されるフリーダイヤル／ナビダイヤルと連動する「Routing・Chat・Voice」機能、コールワークの効率化に効果が高い「Rec・Convert・Summarize」機能、音声データの分析・可視化が可能な「Analyze・Insight」をご提供いたします。 「Routing」：音声で振分け先を自動識別するAI-IVR 「Chat」：AIがQAを自動生成する自律型Chat bot 「Voice」：キャリア網上で24H応対可能なVoice bot 「Rec」：キャリア網上で通話を自動録音 「Convert」：Recで取得した通録を自動でTEXT化 「Summarize」：AIが条件に合わせ応対履歴を自動要約 「Analyze」：キャリアデータを基にした「本当の顧客体験」を可視化 「Insight」：通話録音とキャリアデータを基にお客さまの声・応対状況を可視化	担当者　嶋倉　康一　（シマクラ　コウイチ） 電話番号　090-7876-4242 メールアドレス　suido_ict@ntt.com
24	ジオ・サーチ株式会社	地下インフラ３Ｄマップ（地上・地下インフラ３Ｄマップ）	（技術概要） 多配列地中レーダーを用いて対象範囲を面的にデータ取得・結合し、3次元でデータの解析を行い、埋設物位置の連続的な3次元の線形を捉える。管種を問わず捉えることができ、台帳に記載のない不明管の検出も可能である。 別途、地上部の点群データを同時期に取得し、そのデータを活用して、現況を正確に反映した地盤面を基準とした標高表記の結果を作成することができる。また、台帳から埋設管の口径等の情報を参照して３Ｄモデルを作成することができる。 （活用用途） ・設計前段階に既設埋設物情報の精度向上 ・規制困難箇所における既設埋設物情報の確認 ・道路管理者や他企業との協議（３Ｄ可視化含む） ・施工前の安全確認	担当者　澤井　崇（サワイ　タケル） 電話番号　06-7654-0477 メールアドレス　t-sawai@geosearch.co.jp
25	フジテコム株式会社	水道インフラを守る新しい考え方　～スマートリスクマネジメント～	①AI劣化診断 AI劣化診断では管種、布施年度、事故履歴、環境条件をAIで分析し、劣化度を導出します。管路ごとの事故リスクを数値で可視化することで、対応の優先順位付けが可能となります。 ②IoT遠隔漏水監視システム　リークネッツセルラーLNL-C 水道管に設置されたIoTセンサが漏水により発生する微小振動を日次モニタリングするシステムです。高感度センサが感知・記録したデータは、クラウド上に構築された独自アルゴリズムとAIを組み合わせた「ハイブリッド判定」により漏水と判断すると、スマートフォンやPCへメールやSNSを通じて即時に通知します。漏水の兆候が現れたタイミングで迅速な現場対応が可能となり、本システムは大規模な事故を防ぐ上で大きな力を発揮します。 ③水圧・流量監視システムDLC 減圧弁や管網水圧、中間流量など監視対象となる水道管路施設に設置されたセンサーから出力される水圧や流量の実測データを機器本体部に記録し、携帯通信網を利用してデータ通信を行い、クラウドサーバーにデータを保存します。Webアプリを通じて遠隔にて設置箇所の状態をリアルタイムで確認することが可能となります。水圧や流量の変化を常時把握することで、異常の影響度を定量的に捉え、初動対応や対応判断を支援します。 ④地理情報統合プラットフォーム 地理情報統合プラットフォームIQGeo Platformは、GISデータや地図情報データなど、さまざまなデータをクラウドサーバーに保存・統合し、必要なデータをGoogle Map上に表示・可視化するプラットフォームです。AI診断、IoT監視、水圧流量、管路台帳などを地図上で一元管理できるので、状況の可視化と共有に有効です。	担当者　加治　克宏（カジ　カツヒロ） 電話番号　03-5825-2588 メールアドレス　e-honbu@fujitecom.co.jp

第7回情報連絡会提案企業一覧

26	株式会社エヌ・ティ・ティエムイー	設備維持管理業務におけるICT活用のご紹介	■背景 人員減少・技術継承への対応として、AI等の最先端テクノロジーを活用した業務高度化に取り組んできた。水道事業と共通する設備維持管理業務の特性を踏まえ、知見を活かした変革を支援する。 ■提案技術 当社が有する数あるソリューションの中から、 設備点検、AI・データ活用、Webアプリの3領域を例として紹介する。 各領域において、設備状況の把握、データ分析、情報管理の高度化等を支援し、 事業者様の課題や優先度に応じた活用が可能である。	担当者　佐々木潤(ササキジュン) 電話番号　03-5359-3625 メールアドレス　tr-areaprodeuce-chiiki-ml@east.ntt.co.jp
27	株式会社アイテム	AIボイスボット「こえしるべ」シリーズを活用した次世代型コールセンター基盤	AIボイスボットが電話応対を24時間365日自動で行い、会話内容を高度な自然言語処理で解析・要約してテキスト通知（SMS/メール/管理画面）するDXサービス。 【活用用途】 1. 水道の使用開始・中止、料金照会等の定型的な受付自動化 2. 災害・断水時等の緊急問い合わせのAIボイスボット受電 3. AIによる要約通知を活用したオペレーターの事前準備・応対支援	担当者　広司　信吾（ヒロシ　シンゴ） 電話番号　080-7656-0685 メールアドレス　s-hiroshi@i-tem.jp
28	マイクロベース株式会社	MiraiE Foundry（ミラーエファウンドリー）	生成AI（LLM）を活用した非構造化データの高度構造化・データベース化技術 紙・PDF・画像・手書きメモなどの「非構造化データ」を、AIが文脈を理解しながら読み取り、システムで活用可能な「構造化データ（表形式など）」に変換する統合型AIデータ基盤です。 ◦ 意味理解・論理補正: 単なるOCR（文字認識）ではなく、AIが文脈や項目間の関係を理解し、表記ゆれや誤りを補正しながらデータ化します。 ◦ 高度な構造化: 申請書や図面のようなバラバラな形式の書類から必要な情報を抽出し、指定されたスキーマ（データ型）に格納します。 ◦ 審査・照合の自動化）: 書類の内容を読み解き、法令や計算式などの厳格なルールと照らし合わせて、不備の検知、整合性チェック、計算処理までを一気通貫で実行します。	担当者　仙石裕明（センゴク　ヒロアキ） 電話番号　03-6824-5316 メールアドレス　info@microgeo.biz
29	ノヴェルバリューテクノロジー株式会社・ ウィットシステムズ株式会社（協創開発）	回転設備のSmart保全システム【CBM-X】	本ソリューションでご提案するCBM-Xは、従来の「予兆（予知）保全」をさらに進化させた プロアクティブ予兆保全 を実現する次世代保全システムとなります。回転設備に取り付けた振動センサーからIoT技術によってデータを収集、クラウドに蓄積。収集されたデータをAIと独自の解析技術「相関抽出法」によって、故障の“兆候”だけでなく劣化の原因そのものを推定し、設備寿命の延伸と保全コストの最適化を可能にするシステムとなります。	担当者　長山　豊（ナガヤマ　ユタカ） 電話番号　090-1580-7699 メールアドレス　nagayama.yutaka@novelvalue-tec.co.jp
	ノヴェルバリューテクノロジー株式会社／ 株式会社インターネットインシアティブ／ ウィットシステムズ株式会社（3社協創研究・開発）	新たなWi-Fi規格「Wi-Fi HaLowヘイロー」を活用した広域データ収集及びインフラネットワークの構築。	本ソリューションで活用する通信技術 Wi-Fi HaLow（ヘイロー）は、従来のWi-Fi（近距離高速通信を主な用途としている）に対し、920MHz帯を使用し、IoT用途向けに設計され、低消費電力で広範囲の通信を実現できる点が特徴です。従来のWi-Fiと比べて通信範囲が広く、2.4GHz帯などの通信規格に比べて障害物への耐性も高いため、屋内外のさまざまな環境で利用できます。例えば、広い施設内に設置されたセンサーや遠隔地の監視カメラなど、離れた場所でも安定した通信を維持でき、長距離通信により、複数デバイスの一元管理や効率的な運用が実現できます。また、都市インフラの監視など、広域でのデータ収集が必要な場面でも有効です。このように、長距離無線LAN通信の特長を活かすことで、より広範囲のIoTソリューションを展開する事が可能となります。 本ソリューションでは、この通信技術（Wi-Fi Halow）を活用したサービス化に向け、映像データと複数のIoTデータを収集するネットワークインフラの研究や実証を重ねています。	担当者　長山　豊（ナガヤマ　ユタカ） 電話番号　090-1580-7699 メールアドレス　nagayama.yutaka@novelvalue-tec.co.jp
30	株式会社竹田技研 株式会社コスモ情報システム	管路保全支援システム	提案する技術は、消火栓や止水弁に加振器やセンサを取り付けてこれらの計測機器間の管体の管厚を推定し、推定した管厚などを基に管体を監視する技術です。このため、水管橋や埋設管の管路の劣化の監視につながります。 現時点では管厚推定精度を検証しているところですが、将来的には老朽管の更新の順序や更新の要否などを決めることができる可能性があります。また、計測機器は簡便で、管厚を高速に推定できるため、簡便で高速な管路保全を可能にします。	担当者　竹田　博（タケダ　ヒロシ） 電話番号　086-259-0568 メールアドレス　takeda@takedagiken.jp